

霊長類と環境について学ぶ旅に参加して  
天白透也

8/10(月)「霊長類と環境について学ぶ旅」に参加しました。

まず、京都大学霊長類研究所へ行き、飼育されているチンパンジー達を見ました。友利先生がパントフット(チンパンジーのありさま)でチンパンジーとコミュニケーションをとっているのが、すごいと思いました。放飼場も広く高さがあり、まるで「森」のようでした。さすが霊長類研究所だなあ、と思いました。

友利先生の話を聞いていて心に残ったことは、人間は見た聞いたりしたことを一瞬で記憶し、それを忘れたりそのま再生する能力を捨て、じっくり見てそこから何か新しいことを考えることを得たという点です。

その後、日本モンキーセンターへ来多重かしました。モンキーセンターでは色々なサルを見学しました。柵やおりのない、人間もサルも自由な環境で飼育されているのを、とても間近に見学できました。



チンパンジーの環境  
エンリッチメント体験について

エンリッチメントとは飼育されている動物が楽しく、豊かにくらせるための工夫。

チンパンジーのおトクに工夫する。ピーナツ、ペレット(チンパンジーフード)つまりものを色画用紙や新聞紙、消方のホースに包み、

食べるまでの時間を伸ばしたり、エサを得るための苦勞を与えるため。夕食の時間と重なったので、苦勞している感じはあまりなかったけど、ゆくり食べてくれました。  
環境エンリッチメントを体験して思ったこと  
飼育されている動物が楽しく豊かにくらせるための工夫は野生の世界からつかまえて連れてきた人間の義務だと思いました。

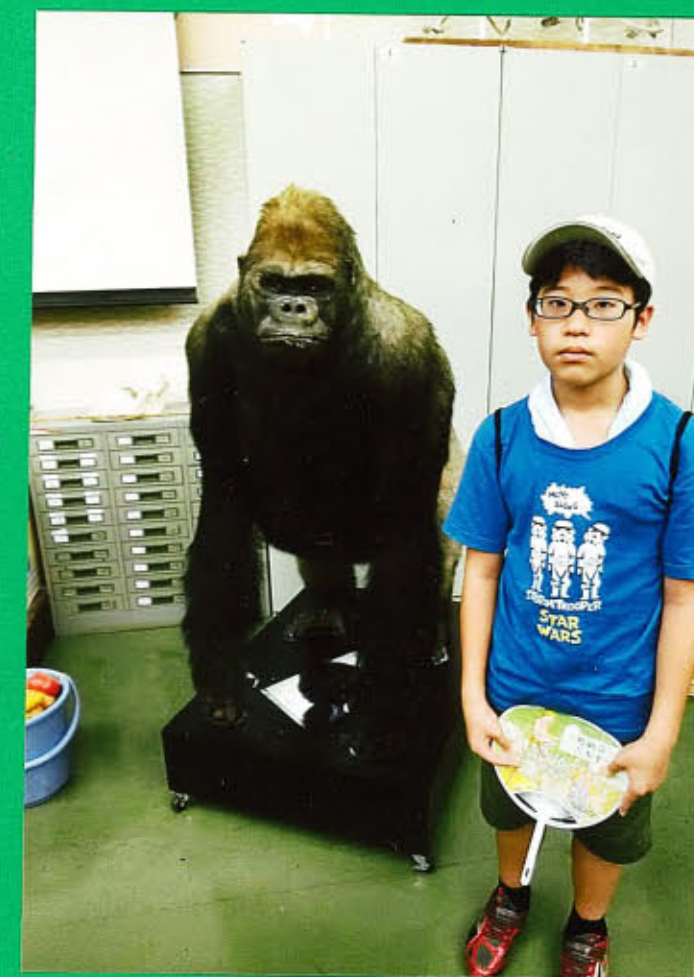


8/11日にニシローランドゴリラのヤマトが亡くなりました

ヤマトは、王子動物園でサクラ(メス)と一緒にいたのに、サクラをばいにするため京都市動物園に移動させるため、一人でさみしくならなりおに福岡へ行くことになりました。

でも、移動させて1か月で亡くなってしまいました。サクラはよりよとしてヤマトの環境が守られていたのが、今悲しく、疑問を感じます。

ゴリラは、とても強そつたけい、とてもおかりで、神経質でも二度と、ヤマトのような犠牲を出さないようにするために、これから、努力して、ほしいと思います。



マウンテンゴリラとぼく  
マウンテンゴリラのほくせいは日本2この2つしかありません。

ニシローランドゴリラとぼく

いつかドイツのカ国立公園に行くと野生のマウンテンゴリラに会いたいです。